

土浦市から、フリードリッヒスハーフェン市のウクライナの人々に 寄付をいただきました

日本の土浦市市民より、ウクライナの戦争で母国を離れざるをえず、現在フリードリッヒスハーフェンに在住しているウクライナの人々に総額 14330.78 ユーロ (2,046,553 円) の寄付をいただきました。

市長アンドレア・ブランドは、お礼のお手紙で感謝を述べました。土浦とフリードリッヒスハーフェンは1994(平成6)年以来、友好都市としてつながっています。

「フリードリッヒスハーフェン在住のウクライナ人避難民のための、寛大な寄付に対し、御礼を申し上げます。貴市市民の広く、積極的なお気持ちが変わり、心が温まります。このご寄付を使い、ウクライナ人避難民のためのプロジェクトを続け、広げていくことができます。」と市長アンドレア・ブランドは書き記しています。

寄付により、土浦市民はウクライナの人々との連帯を示しました。いただいたお金はウクライナの子供たちのためのプレイグループの継続を含む様々なプロジェクトに使われる予定です。

安藤真理子氏へのお手紙の中で、市長は元首相安倍晋三氏の悲劇的暗殺事件についての哀悼の意も示しています。

土浦市は人口約139,000人で、フリードリッヒスハーフェン市からは直線距離で約9,500キロ離れています。世界飛行のコース中、飛行船 LZ127 ‘グラフ ツェッペリン’が1929(昭和4)年8月、土浦付近に着陸し、多くの人々の熱狂的な出迎えを受けました。1994(平成6)年、両市市長は友好関係を促進するため、友好都市の締結をしました。

今日に至るまで、土浦でのツェッペリン時代の思い出は尽きることはありません。ツェッペリン LZ127 の着陸を記念した石碑(訳注1)があり、また、ドイツー日本友好協会はツェッペリンの伝統を継続しています。小さな博物館(訳注2)でツェッペリンの記録集、そして中に入れるツェッペリン(訳注3)が展示されています。20年以上にわたり、フリードリッヒスハーフェンからの長距離ランナーが伝統的なかすみがうらマラソンに招待されてきました。

訳注1) 霞ヶ浦駐屯地(土浦市右粕)内にある記念碑

訳注2) 「まちかど蔵ギャラリー」(土浦市中央)併設の「土浦ツェッペリン伯号展示館」

訳注3) 霞ヶ浦総合公園(土浦市大岩田)に設置されているツェッペリン号を模した大型遊具